

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年09月03 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3272000112		
法人名	株式会社 ひょうま		
事業所名	特定非営利活動法人		
所在地 (電話番号)	島根県益田市美都町山本イ2-3 (電 話) 0856-52-7081		
評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市		
訪問調査日	平成19年 8月 7日	評価確定日	平成19年9月28日

## 【情報提供票より】(19年 7月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 11月 6日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	5人, 非常勤 3人, 常勤換算 6.1

### (2) 建物概要

建物形態	単独	改築
建物構造	鉄筋コンクリート造り	
	2 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	22,000 円	その他の経費(月額)	45,380 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	380 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要( 月 日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名		
要介護3	名	要介護4	名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 84.4 歳	最低	78 歳	最高	93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	林医院・大谷医院・松ヶ丘病院・大畑医院・中島歯科医院
---------	----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域の話題も載せた毎月の広報を回覧したり、「ひなたぼっこ祭り」を開催し認知症の啓発活動を行うなど地域との交流に力が入れている。来訪者と利用者が一緒に撮った写真をノートに貼り、家族がコメントを書くなど「絆づくり」も大切にされ家族との連携を重視している。管理者の「尊厳あるケアの提供」の考えの下、自己評価票や理念・虐待防止チェック等により常にケアを振り返る仕組みがあり、より良いホームづくりを目指している。職員育成も法人で制度化されている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	「入居者の権利を守るために」というひなたぼっこ独自版の作成、環境支援の研修、家族とのカンファレンスの実施、毎月のモニタリングの実施など、それぞれ法人やホームの努力で改善されてきた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価活動が自分たちのケア向上に役立っているという認識が職員共通のものになっている。毎水曜日のカンファレンスや毎月の職場会議で項目毎に検討し、日常ケアの振り返りを行っている。外部評価結果も職員で検討し改善してきた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者の日常の様子や行事の取り組みをはじめ、自己評価や外部評価結果・家族アンケート結果などが報告・検討され、出された意見や要望はケアなどに活かされている。緊急避難時の対応や地域の見守り支援などの協議も行われ、地域との連携強化に努力されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	日常的な家族との会話をはじめ、ケアプランも家族とともに作成したりと家族との連携は密に取られている。毎月の家族向けのお便りとともに担当者が利用者のホームでの様子を書いた個別のお便りも届けている。年一回家族アンケートが実施され、さまざまな意見などに対し文書回答としてまとめられ、家族への配布とともに玄関にも置かれている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	毎月地域版ホームだよりを回覧したり買い物をしたりと地域との付き合いに心掛けている。自治会に加入し、集会や文化祭・祭りなどに参加したり、資源ごみの収集・草刈などの地域の環境整備行事にも取り組んでいる。盆踊りでは地域の声掛けで利用者も踊ったりして地元の人と楽しく交流している。ひなたぼっこ祭りが行われ、認知症啓発活動にも力が入れている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとして今までの生活に近い環境作り、なじみの関りを大切にするということを念頭に置いた理念が作られている。	○	「地域住民との交流の下で」の活動の意義を地域密着型サービス事業所理念としてどう位置づけるか十分な論議をお願いしたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の職員会議では十分な時間をとり理念に基づいて自己評価が行われたり、日々の申し送りやミーティングの場でも管理者から助言するなど理念の共有に取り組んでいる。日誌や連絡ノートなどの活用でチームワークが大切にされている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎月地域向けホームたよりを回覧したり、地元で買い物したりと地域との付き合いが行われている。自治会に加入し盆踊りや祭りなどの諸行事に参加したり、環境整備行事にも取り組んでいる。ひなたぼっこ祭りが行われ、認知症啓蒙活動にも力が入れている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価活動が自分たちのケア向上に役立つことが職員間で認識され、毎水曜日のカンファレンスや月一回の職場会議で項目毎に検討しケアの振り返りを行っている。外部評価結果も職員で検討し改善を行ってきた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の日常の様子や行事をはじめ、自己評価や外部評価結果・家族アンケート結果などの報告も行っている。出された意見はケアに活かしており、緊急避難時の応援や地域の見守りなどの協力支援についても協議されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人本部介護事業部長が認知症高齢者ネットワーク会議や市虐待防止ガイドラインづくりの会に参加し、内容はホーム長会議を通じて伝達されている。市担当者が管理者と直接関わるのは運営推進会議の場であるが、毎回参加とはなっていない。	○	会議の持ち方の工夫やホームの積極的な働きかけで、地域全体の認知症ケアがさらに向上できるように連携に期待したい。ケアマネとの連携にも力を入れて頂きたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族訪問時の報告や電話連絡をはじめ、毎月一回家族向けのおたよりとともに、担当者から利用者ごとのホームでの暮らしの様子などを載せたおたよりを届けている。受診時の報告や金銭管理についても報告され介護計画も渡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会での意見聴取をはじめ、家族の訪問時や介護計画の作成時の話し合いなどを通じ、多くの意見を聞くようにしている。年一回の家族アンケートが実施され、さまざまな意見や要望に対し文書回答としてまとめられ、家族への配布とともに玄関にも置かれている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者との馴染みの関係が重視され、法人内の職員異動は行わない方針となっているが、欠員補充のため止むをえず異動が発生した場合には引継ぎ期間を設けるなどのダメージ対策を取っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として新人研修をはじめ、夜勤者会議・職員合同研修などが実施され、日常ケアやカンファレンスを通じて管理者の指導も行われている。法人外の研修参加も積極的であり、参加後の職場会議での発表や意見交換も行われ、職員も学ぶことに意欲的である。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム管理者の会議に参加し、その内容が伝達されケアの質向上に役立っているが、管理者レベルとなっていて、職員同士の交流や相互訪問などはこれからである。	○	地域全体のケア向上や職員交流のため、交換研修や事例検討会などに積極的に取組まれることに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族や利用者に見学や体験入居をして頂き、利用者本人が納得した上で入居してもらっている。入院など場合には面会に出向いたり、止むを得ない時には家族に頻回な面会を要請するなどして、徐々に馴染んでもらえるような対応に心掛けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	鞆つくりや習字・草取りなど本人の得意とすることへの援助を行うなど、利用者が楽しめる場面づくりを行っている。職員は一日の内で利用者と1対1の時間を取っているなど、信頼関係を作ることに力を入れるなど一緒に過ごす時間を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日々の生活を通じて本人の思いや願いを把握するようにしている。困難な場合は日頃の言動で推し量ったり家族とのカンファレンスで情報交換を行い本人の希望や意向を把握するようにしている。	○	現在取り組んでいるセンター方式をさらに活用できるよう期待したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	習字の得意だった利用者には、地域の教室へ出かけるような支援計画が立てられるなど、本人や家族の意向が尊重されたものとなっている。介護計画は家族を交えて作成され配布もされている。木目細かい内容となっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の変化に対応した介護計画の見直しが行われている。毎月一回モニタリングを行っているが、検討内容の記録や継続を確認した場合などの日付が記載されていない。	○	毎月の見直しとその記録・日付をきちんと記入されることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族と連携し必要な医療機関への受診や通院への支援を行っている。看護師の配置による健康管理や家族の宿泊や利用者の外泊支援も行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による往診をはじめ、本人や家族の希望する医療機関への受診は職員や家族が同伴するなどして支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方などについて、早い段階から家族の意向を聞いたり介護計画を作成する時にも確認している。見取りについての方針は家族やかかりつけ医・職員とで共有され、状況に応じて出来る限りの対応を行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーが損なわれないような対応をしようと、毎月の職員会議の場で気になる言動について相互に注意あっている。職員は守秘義務・個人情報保護の誓約をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	畑作りや草とり・習字教室への参加・手まり作りなど、利用者の持っている力を発揮できる支援をしたり、その人のペースに合わせて過ごせるように配慮している。職員のペースにならないように「慣れ」を相互に戒めあっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
や					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力を見極めながら、差し入れの野菜で献立を考えたり、調理や盛り付け・配膳・片付けなど一緒に取り組んでいる。職員は同じテーブルで同じものを和やかな会話をしながら食べている。季節により弁当を作って出かけたり、外で食事することもある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴する一日おきに入浴する人など利用者の希望に沿って支援している。日曜祝祭日を含め入浴のない日はなく、夜間入浴も取り入れている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	集中力の強い利用者の支援にと外部の作業所の協力を得て作業をしてもらったり、喫煙する利用者には職員が側で見守るなど本人の楽しみが大切にされている。利用者の心地良い生活実現のためにと学習にも取り組んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	地域の諸行事に積極的に参加したり天気の良い日には散歩したり外で過ごしたりと、外に出ることを大切にしている。買い物や友人に会うなど本人の希望に沿った対応を行い、墓参り・寺参りなどにも行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関や居室は開放されている。建物がコの字型であり職員が常駐する居間にモニターがあり、利用者の把握に役立っている。利用者の動向を把握しながら声掛けで対応しているが、ホームの都合や利用者の状況で止むを得ず施錠することもある。	○	体制や構造上のことなど困難さがあると思われるが、ボランティアや近所の方の協力を得るなどの工夫や体制調整などで鍵をかけないケアの実現を期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署指導による避難訓練を年1～2回行ったり、三ヶ月に一回利用者も参加した避難訓練を実施している。地域の協力もある。火災時のマニュアルはあるが、地震・風水害対策は未整備であり現在地域包括支援センターと協力して作成中である。	○	地震や風水害対策の整備とともに水・食料等の三日間程度の備蓄品確保も検討して頂きたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好きなものや季節のものを取り入れて献立が工夫されたり、咀嚼の状態に合わせてキザミ・ミキサー食・とろみの利用などが行われている。食事量や水分摂取量は毎日記録されているが、専門家の栄養バランスのチェックは受けていない。	○	家族の要望もあり、地域との連携を図る上からも、行政保健師や学校の栄養士の協力で年数回の栄養バランスチェックを実施されるよう期待したい。
や					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や廊下の窓からは緑が見え椅子やベンチ・ソファーなどが置かれ、利用者が喫煙で一息付いたり気のあった者同士で過ごせるよう配慮されている。テレビの音や遮光に注意したり、虫の声やツバメの巣作りなど季節を感じてもらえるような支援も行っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのタンスやテーブルが持ち込まれたり、利用者が書いた絵や習字などが飾られている。畳部屋やベットを利用して部屋・ベットと畳を併用している部屋があり、本人が過ごしやすい環境が作られている。		